

入中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第17号
2020年11月16日
編集・発行 吉成正士

第2回学年全体人権学習から:11月12日

12日、第2回学年全体人権学習を行いました。これまで学習を積み重ねてきた障がい者問題を通して、次のようなテーマについて語り合い、学びを深めました。

1. 今までの学習で心に残ったことは何ですか。
2. それを受けて、みなさんは今後、どんな行動をしていきたいですか。

今回は、そのときにみなさんから出された発言や感想について紹介してみたいと思います。

私はよく身近な人で苦手だなという人がいたりして、意識的に避けたりとか、そういうふうにしてしまったりすることがあって。それが差別とか、そういうふうになって。それも目の見えない方とかにしていることと同じような感じになるんだらうなっていうふうに、人権の学習を通して感じて。だから、そんなに急に、よけないようにとか、平等にとか、そういうのはできないかもしれないけど、でもそれをできるように、自分から何かしたりとか、そういうふうなことをもっと増やして、もっと誰にでも寄り添えるような、そんなふうな自分になりたいなって思いました。(2組OB)

*

さっきOBさんが、誰にでも寄り添えるようにしてみる、みたいなことを言っていたんですけど、それを聞いてすごいなって尊敬しました。私もそうできるように、できるだけ人を避けないようにしたいなって思いました。以上です。(4組UM)

*

先ほどUMさんが、人を避けないように、なるべく人を避けないようにしたいっておっしゃったのを聞いて、私も得意な人とか好きな人とか嫌いな人とか苦手な人があるし、いるんですけど、その人に関わるときに、いつも思うようにしてるのが一つあって、それは、その人を大切に思う人や、その人が大切に思ってる人がいるんだ。その人も、私が悪い面しか見れてないだけで、絶対にいいこともしてるし、いい面もあるんだって考えるようにしてます。そしたら、その人のいいところを見つけようっていうポジティブな気持ちになれて、あまり苦手じゃなくなったりして、避けないようにできるかもしれません。(4組HS)

3人の言葉が言葉を越えてつながっているように感じました。居る場所は離れているのに、まるで互いが細い糸でつながってるかのようでした。このつながりは、話を聞いていないとできません。つまり、ちゃんと聞いているということです。そして、共感した思いに自分もつながろうという思いが伝わってきました。

こういうのを、「主体的・対話的で深い学び」と言います。現在、国が推奨している学習です。この言葉

が出されたとき、「あっ、これはこの学習だ！」とピンときました。先生がグイグイ誘導するのではなく(あってもいいのですが)、みなさん自身が主体的に、みんなと対話することを通してそれぞれの考えを深め、それぞれの気づきにつながっていくというものです。実際、こんな感想が届きました。

■私の印象に残っていることは、「人をなるべく避けなないようにしたい」と言っていた子に対して、HSさんが、「その人を大切に思っている人がいる。また、その人が大切に思っている人がいると考えると、その人の悪いところじゃなくて、良いところが見えてくるんじゃないかな」と言っていました。私はそんなふう考えたことがなかったので、すごいなと思いました。私もこれからは、その人の悪いところだけを見るんじゃなくて、良いところを見ていきたいと思います。

ユニバーサルデザインがもっと広がってほしいという意見には、私も賛成でした。私もユニバーサルデザインは、もっと多くの人知って使ってくれたらいいなと思いました。私は今回の人権学習で、障害者の方の思っていることを知れてよかったです。 ST

受け身で学んだことは、身につけにくいもの。でも、自ら学んだり気づいたことは、身につけやすいものです。受け身が習慣化されている人は、与えられなくなれば、そこでストップしてしまいます。でも、主体的に動ける人には限界がありません。そもそも自分の中に、自分を動かすエンジンを持っているのですから。この学習から、そんな主体性を身につけられれば、みなさんは最強です。

私がしてもらって嬉しかったことなんですけど、私自身いろいろあって、ちょっと変な時期とかがあったんですけど、それでもみんなが普通に接してくれて、そういう態度とかに救われて…。自分はどんなんでもいいのかなっていうふうな…。もちろん悪いところとか、そういうのはあるんですけど、それでもどんな姿でも、どんな感情とか持っても、自分は(自分のままで)いいのかなって思えました。(2組OB)

同じ思いを持ちながら生活している人は、他にもいるのかもしれませんが。それはみなさんのような中学生だけでなく、大人のなかにも。

このような形の人権学習に長年取り組んできましたが、数年前、昔の教え子が当時をふり返ってこんなふう書き記してくれたことがありました。彼女は自分のプライベートなことにはふれたうで…。

中学の時、学年全体人権学習等を通して学んでいなかったら、自分一人で我慢して隠していたのだと思います。あと、大人になった今、親の歳になったような気分を感じることは、「私に頑張る場所を与えてくれてありがとう」ということです。私が、イキイキでき

る場所でした。

人はそれぞれ、大なり小なり、様々な悩みを抱えながら生きているのかもしれませんが。吐き出してしまえば少しは楽になれるのかもしれませんが、いったい誰に言えばいいのか、そもそも人を信じていいのか…。この学習が、そんな答えの一つになるのかもしれないなと思っています。

KB先生のお話にも、次のように応えてくれた子がいました。

先ほどのKB先生が言っていた学級日誌のことを友達から聞きました。そのとき私は、本人が頑張っているのにと許せませんでした。人のことを考えて学級日誌を書いたりしてほしいなと思いました。(1組KK)

*

KB先生がおっしゃっていたように、教室の中の小さな手助けをみんながすれば大きくなると思いました。(4組青木)

おかしいことが、「おかしい」と言える関係。そして、間違っていたら、素直に「ごめんなさい」と言える関係。そんな関係が少しずつ目の前に見えていけば、信じ合える関係、つまり、生きやすい空間が生まれていくのだと思います。また、こんなふうに表現してくれた人もいました。

困っている人やそうでない人の目線になって、その人に親切にしてあげることや、クラスの小さな親切が増えることで、人と人との間が和んで、人と人との間の見えない壁がなくなると思いました。(3組TN)

「人と人との間の見えない壁がなくなる」本当にその通りだと思います。それに重ねて、こんな発言も。

僕は八万小学校出身で、中学校が始まったときは八万小学校の子ばかりといました。けどあるとき、八万南小学校のKHくんが話しかけてくれました。そのときに、八万南小学校と八万小学校の見えない壁っていうのが無くなったような気がしました。そのときに、そんな子が増えてくれればいいなと思いました。(4組TT)

「己の欲せざるところ人に施すことなかれ」

昔々、中国にいた孔子という偉い人の言葉です。

「自分がされて嫌なことは人にするものではない」

逆な言い方をすれば、「自分がされて嬉しかったことは人にしよう」となるのでしょうか。人はそれぞれ価値観が違いますから、必ずしも自分の嬉しいことが人も嬉しいとは限りませんが、間違いを恐れては何もできません。まずはやってみる。そして間違っていれば直していく。その繰り返しと積み重ねじゃないかと思えます。

一番は、困ってる人に声をかけて助けられることだけど、実際それが本当にできるかどうかは、分かりません。

僕は最近学校の帰りの時に、家の近くに、自転車に乗ろうとしているおじいさんがいて、「大丈夫だろうか」と思いながらも、「何かあったら他の人が助けてくれる

だろう」と思っていました。でも、ガシャンという音が出て、おじいさんがこけてしまったので、とっさに「大丈夫ですか」と声をかけることができました。きっと人権学習を通して、友達や周囲の意見を聞いて人権の意識が深まっていたので、とっさに声をかけることができたのだと思います。もし次にまた困っていたら、「他の人が助けるだろう」と素通りするのではなく、困っているだろうかと考え、できるかどうかは自分次第ですが、声をかけられるよう頑張っていきたいです。人権学習にふれ、いざというときに助けられるようにすることが大切だと思います。

目の前に山積みになった課題を終わらせるように、世の中にも山積みになった問題があると思うので、それをなくしていけるよう努力しなければいけないなと思いました。(2組NN)

「人権学習を通して、友達や周囲の意見を聞いて人権の意識が深まっていたので、とっさに声をかけることができた」と聞いて、本当に嬉しく思いました。この道に終わりはありませんが、少しずつ理想の世界に近づいていくようで、もっと先に進みたいと思いました。

■私は、目が見えない方とか耳が聞こえない方は、遠い存在だと思っていて、でも自分が社会のルールを守っているだけで、目の見えない方の手伝いをしていることになるし、点字ブロックの上に自転車などを置かないことで、目が見えない方たちのためになるからです。

みんなの意見の中で、目が見えない方のことを障害者と呼ぶのは差別ということを書いて、私はすごく共感しました。なぜなら、みんな普通の人間だし、障害者と言ったら距離を感じて、また遠い存在になるからです。なので、もっと目の見えない方たちなどが、もっと生きやすい環境になってほしいと思いました。HT

みなさんの発言を活字に直す作業をしていたのですが、本当に苦になりませんでした。みんなが重ねる発言にグイグイ引き込まれて、アッという間の3時間の作業でした。

昔は録音したカセットテープレコーダーを使い、聞き取りにくい声を聞き取りながら、パソコンでの作業もままならなかったために、授業の10分を活字に直すのに、だいたい1時間くらいかかっていたことになりました。

でも今は、すべてパソコン上で作業ができ、声も聞き取りやすいので、10分を直すのに約半時間。今回のように60分の授業だと、約3時間の作業でできてしまいました。恐らく、もっと技術が進めば、言った言葉がリアルタイムで簡単に活字に直せるようになるのではないかと思います。それは、私がやっている作業の効率が上がるだけの話ではなく、耳の聞こえない人や聞こえにくい人など、様々な障がいをもった人や、私たちにとってもいい環境になるのではないかと思います。そんな発想が実現できるようになるために、今みなさんがしている数学や理科、技術、英語の勉強が役に立つのだと思います。そしてもし将来、実際にそんな開発をする人が出てくれば、その技術力で、「遠い存在」が、より「近い存在」になるのかもしれませんが。

今回はここまで。この続きはまた次号に。